

4-2 実践事例及び考察

実践事例2 第5学年 「伝記を読んで『すごい』を伝えよう」

教材 「手塚治虫」（東京書籍 5年下）

○実践校における課題の焦点化

「求められた様式に合わせて書くこと」
「文章を読んで自分の考えを書くことや感想を述べること」

○課題の解決に向けて必要な力

「求められた様式に合わせて書く力」
「文章を読んで自分の考えを書く力」

○授業改善のポイントを生かした手立て

ア 児童に見通しをもたせ、主体的な学びをつくること

[手立て①] 「宮沢賢治」のモデル感想文を提示し、「書き技」を見付け、参考にさせる。

[手立て②] 自分の考えを書くことへの抵抗を減らすために、スモールステップで手立てを打つ。

- ・「宮沢賢治」のモデル感想文での学びを「マイ感想文」につなげる。
- ・読みの視点（『すごい』を見付ける視点）と、感想をもたせるための視点（自分と結び付ける視点）を明確にさせる。
- ・語彙を広げるために、「ことばの資料」を活用させる。

イ 単元を通して言語活動を位置付けて授業を行っていくこと

[手立て③] 単元を通じた言語活動として、「モデル感想文を参考にしてマイ感想文を書こう」を位置付け、学習読書を促す。

ウ 自分の考えを広げたり深めたりさせる話し合いを授業に取り入れること

[手立て④] 児童が考えを広めたり深めたりする場として、グループ学びを設定する。

エ 学びを自覚させる振り返りを取り入れること

[手立て⑤] 振り返りで、キーワードを使って「学習して分かったこと」をまとめさせ、「自分ができるようになったこと」を書かせることで、自分の学びを自覚させる。

指導計画

- 1 単元名 伝記を読んで『すごい』を伝えよう
 ～モデル感想文を参考にしてマイ感想文を書こう～
 教材 「手塚治虫」 （東京書籍 5年）

2 単元について

(1) 児童観

事前調査から、「国語の授業が好きか」という問いに対し、81.8%の児童が「好き」「まあまあ好き」と回答している。学習の様子を見ていると、漢字・言語の学習や文学的な文章の学習を好む児童が多い。また、読書を好む児童が多く、休み時間には熱心に読書活動に励む児童の姿は多く見られる。

しかし、読書感想文を苦手とする児童は多い。「注文の多い料理店」を学習した後、「宮沢賢治」の伝記を読ませ、原稿用紙1枚程度で感想文を書くという学習を設定した。ほとんどの児童が、原稿用紙1枚程度は書いたものの、いくつかの事実描写を取り上げて並べているだけの文章や、印象深く残った行動描写を『すごい』という言葉のみで表現している文章が多数見られた。「もし、自分だったら…」とか「自分も同じようなことが…」など、自分の考えや思いとつなげて書いている児童は18%にとどまった。

以上のことから、本学級の児童は、課題に対して書こうという意欲はあるものの、伝記をどのように読み、どのように感想文を書けばよいのかを理解していないことがうかがえる。また、自分の考えや思いを表現するための語彙力が、まだ十分に備わっていないともいえる。

(2) 教材観

教材「手塚治虫」は、漫画家手塚治虫の生き方を取り上げた伝記である。伝記を初めて学習する児童にとって、アニメ「鉄腕アトム」などの作者である手塚治虫の生き方を学ぶことで、伝記に興味をもつことが期待できる。また、5つの章から成り、時系列に記述されているので、児童たちには理解しやすい文章構成といえるだろう。さらに、取り上げられている出来事には、手塚治虫の漫画への情熱と努力が表れているものが多い。また、いじめ体験など児童が自分と関係付けて考えやすい事柄も取り入れられているので、児童たちが自分を見つめ直し、自分の生き方について考える言語活動を行うのに適した教材といえるだろう。

(3) 指導観

本単元では、伝記を読んで対象人物の『すごい』と思った事実描写や説明を取り上げ、モデルの感想文を参考にしながら自分にしか書けない「マイ感想文」を書く活動を、単元を通した言語活動として位置付ける。

具体的な手立てとしては以下の5点を講じる。

① モデルの感想文を提示し、「書き技」を見付けてまとめさせる。

まず、「マイ感想文」を書くためには、良い感想文について知ることが大切である。そこで、5種類のモデル感想文を提示し、児童に、モデル感想文の中の構成や表現の工夫、真似してみたいことを見付けさせる。それを「書き技」としてまとめていくことで、児童全員がどのように書けばよいかを共有することができると期待した。

② 教材文を俯瞰的に読み、自分が考える『すごい』を見付け出させる。

対象人物の経歴を順に追って読んでいくのではなく、全文を通して自分が『すごい』と思った対象に付箋を付けさせていく。『すごい』を見付ける視点として、対象人物の業績・行動・考え・残した言葉・エピソード・周りの人との関わり・周りへの影響・作品・生き方などを話し合っ決めてさせた。付けた付箋を取捨選択しながら、自分の考えや思いとつなげさせていった。

③ 自分の考えを明確にもたせる。

モデル感想文を基に、対象人物と自分を結び付ける視点を話し合わせた。自分はどうか、自分だったらどのような行動をするか、自分が学んだことは何かなど、自分と比較したり、置き換えたりすることで、具体的な自分の思いや考えを明らかにさせていった。

④ 本教材を学習後、自分が選んだ伝記で「マイ感想文」を書かせる。

学級文庫に伝記の本をそろえ、学習読書を推進した。「手塚治虫」の学習後、自分が選んだ伝記で「マイ感想文」を書く学習を行い、感想文を書く力を高めることができると考えた。モデル感想文を参考にしながら感想文を書く方法を「知って」「使って」「活用する」単元計画を立てることで、感想文の学習方法を習得することができると考えた。

⑤ 「ことばの資料」や国語辞典を活用させる。

自分の考えや思いを適切に表すことができるように、「ことばの資料」や国語辞典を手元に置いて学習を行った。これらを使いながら、自分の考えや思いに一番近い「ぴったり合う言葉」を考える活動を取り入れることで、語彙力の向上を図った。

このような手立てを講じて、「マイ感想文」を書く活動を行わせる。課題であった「文章を読んで自分の考えを書くことや感想を述べること」の解決を目指した。この学習を通して、児童に「様式に合わせて書く力」が身に付いたことを自覚させ、感想文を書くことに自信をもたせたいと考えた。

3 単元の目標

- 対象人物の生き方に対する自分の考えを明確にもち、感想文を書くことができる。
- 伝記の特徴を理解し、事実や意見などを押さえて読み取ることができる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<p>・進んで伝記を読み、「マイ感想文」作成に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>・伝記を俯瞰的に読み、対象人物の『すごい』と思う事実記述や説明を見付けている。(イ)</p> <p>・伝記に描かれた対象人物の行動や生き方と自分の経験や考えを結び付けて感想をまとめている。(オ)</p>	<p>・時間の経過によって変化するという言葉の特質や、世代によって特有の言葉遣いがあることに気付いて、文章を読んでいる。(イ(カ))</p>

5 指導と評価の計画（全8時間）（授業改善のポイントを生かした手立てについては、手立て番号と下線で示す『①-_-』）

次	時間	学習内容	指導上の留意点	評価規準【 】と 評価方法（ ）
一	1	○学習の見通しをもつ。 ・伝記について知る。 <u>①学習のゴールの姿を知り、モデル感想文から感想文を書くための「書き技」を見付ける。</u> <u>④グループ学び</u>	・様々な人物の伝記を用意し、伝記への興味をもたせる。 ・5種類のモデル感想文を提示し、感想文を書くときに取り入れたい視点を見付けさせる。	【関】 ・モデル感想文を読み、感想文の「書き技」を意欲的に見付けている。 (行動観察)
	<p>《学習課題》 <u>③伝記を読んで『すごい』を伝えよう。</u> <u>～伝記を読んで自分の生き方について考え、モデル感想文を参考にし、マイ感想文を書こう～</u></p>			
	2	○伝記「手塚治虫」に出会う。 ・新出漢字や難しい言葉の意味調べをする。 <u>ひとり学び</u>	・時代の違いで分かりづらい言葉は、事前に例示し、その中から選択して意味調べをさせる。	【言（イ(カ)）】 ・教材文に出てくる新出漢字や難しい言葉を調べ、理解している。 (ワークシート・発表・行動観察)
二	3	○教材「手塚治虫」を読む。 ・「手塚治虫」の『すごい』と思う事実描写を見付ける。 <u>④グループ学び</u>	・5つの章の内容の大体を確認し、自分が『すごい』と思う事実描写等に付箋を付けさせる。	【読（イ）】 ・「手塚治虫」の生き方をおおむね理解し、『すごい』と思う記述を取り上げている。 (ワークシート・発表)
	<p><u>②(『すごい』を見付ける視点)</u> <u>業績・行動・考え・残した言葉・エピソード・周りの人との関わり・周りに与えた影響・作品・生き方</u></p>			
	4	○「手塚治虫」の『すごい』と思う事実描写と自分を結び付けて考える。 <u>④グループ学び</u>	・取り上げた『すごい』記述と自分の考えを結び付ける視点を与えて、感想を書かせる。	【読（オ）】 ・「手塚治虫」の事実描写と自分の経験や考えを結び付けた感想を書いている。 (ワークシート・発表)
	5	○「書き技」を使って、感想文を書く。 ・原稿用紙1枚程度で書く。	・モデル感想文を参考にして、字数など共通の「書き技」を確認する。	【読（オ）】 ・「手塚治虫」の生き方を通して自分を見つめ直


	<ul style="list-style-type: none"> ・常体か敬体かをそろえる。 ・構成 （始め）～な人 （中） 事実描写+自分の考え （終わり） これからの自分 <p>ひとり学び</p> <p>④ グループ学び</p> <p>6 ○友達のマイ感想文の「書き技」を見付ける。</p> <p>④ グループ学び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに「ぴったり合う言葉」を使えるように、資料や国語辞典を活用するように助言する。 ・感想文を書き上げるのに掛かる時間には個人差が出るため、書き終わらなかった児童には、個別指導を行う。 ・グループで友達のマイ感想文を読み合い、「書き技」を効果的に使っている部分を見付け、付箋を付けさせる。 	<p>して、自分の考えを明確にもっている。 （ワークシート）</p> <p>【読（オ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品の良いところである「書き技」を意欲的に見付けている。 （行動観察・付箋）
<p>三</p>	<p>7 ○自分が選んだ伝記でマイ感想文を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 『すごい』と思ったところに付箋を付ける。</p> <p>② 付箋を付けた事実描写に対して、自分を結び付け、自分の考えや思いを書く。</p> <p>③ ②の内容から、対象人物が【～な人】かを考える。</p> <p>④ 大まかな構成を考えて、原稿用紙に書く。</p> </div> <p>ひとり学び</p> <p>④ グループ学び</p> <p>8 ○3人グループで感想文の発表会を行う。</p> <p>④ グループ学び</p> <p>○クラス全員の感想文集を作成する。</p> <p>クラス学び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「手塚治虫」の感想文をどのような手順で書いたのかを確認する。 ・自力でマイ感想文が書けるように励まし、「ことばの資料」を使って「ぴったりの言葉」を探すように促す。 ・小人数で発表会を行い、「書き技」が効果的に使われているところに付箋を付けて、「ほめほめカード」に記入させる。 ・「ほめほめカード」を基に交流させ、互いの良さを認め合わせる。 <p>⑤ <u>感想文集の最終ページに、単元を振り返って、学んだことを記述させる。</u></p>	<p>【読（オ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ対象人物の業績や行動などから生き方を読み取り、自分と結び付けてマイ感想文をまとめている。 （ワークシート） <p>【関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品の良いところ「書き技」を意欲的に見付けている。 （行動観察・付箋）

第5学年 実践事例（1時目）

1 本時の目標

モデル感想文を読み、感想文を書くための「書き技」を見付けることができる。【関・意・態】

2 本時の展開(全8時間 本時1/8)

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 伝記について知る。 2 単元の学習の見通しをもつ。	○プレゼンテーションで様々な分野の伝記を紹介し、偉大な業績を残した人の一代記が伝記であることを知らせた。また、最近では亡くなっていない人でも伝記として書物化されていることを知らせた。 ○単元の学習課題を知らせ、担任が考えているゴールの姿を示した。
<p>《学習課題》</p> <p>伝記を読んで『すごい』を伝えよう。</p> <p>～伝記を読んで自分の生き方について考え、モデル感想文を参考にし、マイ感想文を書こう～</p>	
3 モデル感想文を読み、感想文を書くための書き技を見付ける。	○教室に用意した伝記の文庫を紹介し、教材「手塚治虫」と自分で選んだ伝記の感想文を書くことを知らせた。  <p style="text-align: center;">教室に設置した「伝記文庫」</p> <p style="text-align: center;">学校図書館＋公立図書館＝ 200冊程度</p> ○モデル感想文を5種類準備し、じっくり読ませる時間を確保した。モデル感想文は、既習学習「注文の多い料理店」の作者である宮沢賢治の伝記の感想文とした。「注文の多い料理店」の学習終了時に、児童も宮沢賢治の伝記の感想文を書いているので、書き技を見付けやすいモデル感想文であると考えた。
<p>《本時のめあて》 伝記「宮沢賢治」のモデル感想文を読んで、「書き技」を見付け、マイ感想文に生かしてしていこう</p>	
・モデル感想文Aに使われている「書き技」を考える。	○モデル感想文Aから、優れた表現や真似してみたいところを見付け出させ、「書き技」とすることを知らせた。

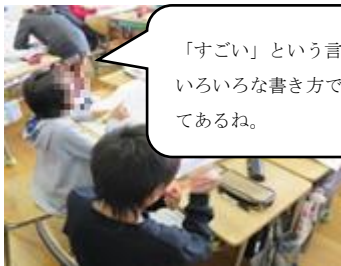
クラス学び

・児童の意見

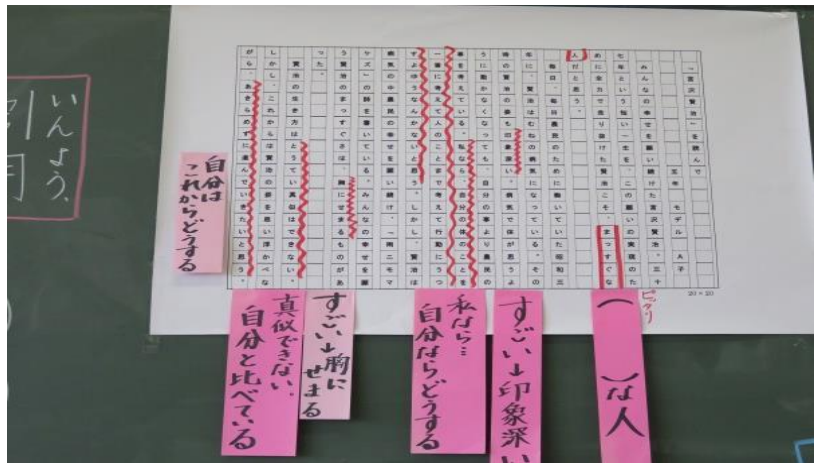
- ・「始め」に、（ ）な人と書いてある。
- ・『すごい』ではなく、別の言葉が使っている。
- ・自分なら、どうするかを書いてある。
- ・自分と比べて書いてある。

- ・モデル感想文B・C・D・Eの「書き技」をグループで話し合いながら見付けていく。

グループ学び



- 4 5つの感想文の共通した「書き技」をまとめる。



モデル感想文Aから見付け出した「書き技」

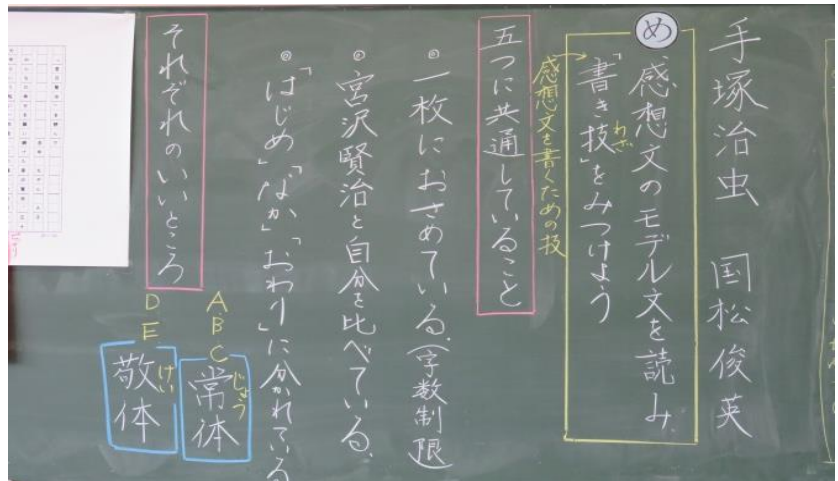
- みんなで見つけたAのモデル感想文の「書き技」を基に、モデル感想文B・C・D・Eの書き技をグループで話し合いながら、見付けさせた。
- グループで見つけた「書き技」は、「書き技」ごとに紙に書かせ、拡大したモデル感想文に貼らせた。



各グループで見つけた「書き技」

- 各グループの「書き技」を掲示し、いろいろな「書き技」を使って、事実描写と自分の考えを結び付けていることを押さえた。

【評価】

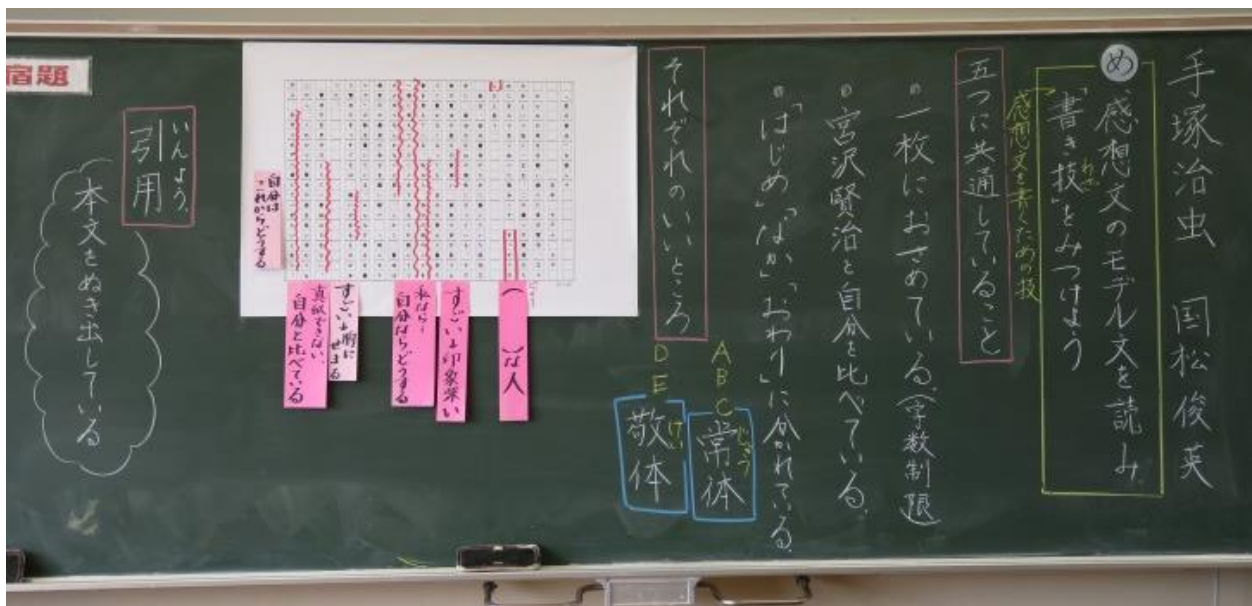


<p>5 次時に教材「手塚治虫」を読むことを知らせる。</p>	<p>① 原稿用紙1枚程度にきちんと収まっている。 ② 「始め」「中」「終わり」に構成されている。 ③ 常体か敬体かそろっている。 ④ 事実描写に対して自分の考えを明記している。</p> <p style="text-align: center;">モデル感想文から共通して見付け出し、まとめた「書き技」</p>
---------------------------------	--

3 本時の評価

評価規準	5種類のモデル感想文から「書き技」を意欲的に見付けようとしている。 【関・意・態】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	グループ内で伝記に描かれた人物と自己とを比較する「書き技」について意見を出し合いながら見付け出している。	グループ内で意見を出しながら、「書き技」を見付け出している。	<p>話し合いに参加できない児童 → 友達の意見を聞いてワークシートに書くことで理解するように助言する。</p> <p>話し合いが滞っているグループ → モデル感想文Aの板書を参考に同じ「書き技」を探るように助言する。</p>
評価の方法	発言・応用紙の記述・振り返り・行動観察		

4 板書及びモデル感想文



第5学年 実践事例（2時目）

1 本時の目標

教材文「手塚治虫」に出てくる新出漢字や難しい言葉を調べ、理解することができる。【言】

2 本時の展開(全8時間 本時2/8)

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 教材文「手塚治虫」に出会う。 (時間：15分程度)	○電子黒板の音声教材を使用し、教材文を読んで聞かせた。難しい漢字や難しい言葉をチェックしながら読み進めるように事前に指示を出した。
2 本時のめあてを知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《本時のめあて》伝記「手塚治虫」を読んで、難しい言葉の意味を国語辞典で調べ、手塚治虫の生き方を知ろう。</p> </div>
3 意味調べをする。 ひとり学び	<p>○一人一冊の国語辞典を持たせた。</p> <p>○難しい言葉を見付けることが困難な児童もいるため、時代の違いで分かりづらい言葉(戦争用語)や難しいと思われる言葉を黒板に板書する。(慣用句や複合語など国語辞典にそのままでは載っていないもの)</p> <p>※「大目玉をくろう」 「大目玉」の「大」はその程度を表現している言葉なので、「目玉」を調べるように助言した。</p> <p>※「奮い起こす」 「奮い」…を探していくと、同義語「奮い立つ」＝「奮い起こす」と明記してあるため、「奮い」で探すように助言した。</p> <p style="text-align: right;">【評価】</p>
4 学習を振り返る。 ・国語辞典の引き方 ・難しい言葉の理解	○2つの項目で今日の学習を振り返らせた。

3 本時の評価

評価規準	難しい言葉を国語辞典で調べ、理解している。【言】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	ワークシート(意味調べ11個可能なもの)に、難しい言葉を選び、意味調べを行い、的確な意味を選んでいく。	ワークシート(意味調べ11個可能なもの)に、難しい言葉を選び、意味調べを自力で行っている。	個別支援 言葉が載っているページ近くまで一緒に探し、最後は自力で見付けさせる。
評価の方法	ワークシート・振り返り・行動観察		

第5学年 実践事例（3時目）

1 本時の目標

教材文「手塚治虫」の内容の大体を読み、『すごい』と思う事実描写を見付けることができる。【読】

2 本時の展開(全8時間 本時3/8)

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 教材文「手塚治虫」が5つの章に分かれていることを確認する。	○ワークシートに5つの章の小見出しを書かせ、各章の時代の対象人物の年齢を想像させた。伝記は、誕生から亡くなるまでの経緯について書いてあることが多いことを知らせた。
2 本時のめあてを知る。	
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>《本時のめあて》伝記「手塚治虫」を読んで、自分が『すごい』と思う事実を見付け、『すごい』を教え合おう。</p> </div>	
3 教材文「手塚治虫」を読む。 ・付箋を付ける	○『すごい』と思う事実描写に付箋を付けさせた。 ○数多く付ければよいというものではなく、厳選して付箋を付けていくように助言した。 ○付箋を付ける視点を提示した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【付箋を付ける視点】・行動(したこと)・考え・残した言葉・周りの人との関わり・周りに与えた影響・作品・生き方 など</p> </div>	
4 自分が見付けた『すごい』を3～5程度に絞り、ワークシートに記入する。	○ワークシートに書く場合は、内容を要約して書かせた。 教材文の記述をそのまま書き写してもよいこととした。【評価】
5 友達を選んだ『すごい』を知る。	○特に『すごい』と思った事実描写を1つ選んで色画用紙に書かせ、全員分を黒板に掲示したことで、人それぞれに『すごい』と思う見方が違うことを認め合わせた。
6 学習を振り返る。	○『すごい』と思う事実描写を選び、付箋を付けることができたか、それを要約してワークシートに記入することができたかについて自己評価させた。

3 本時の評価

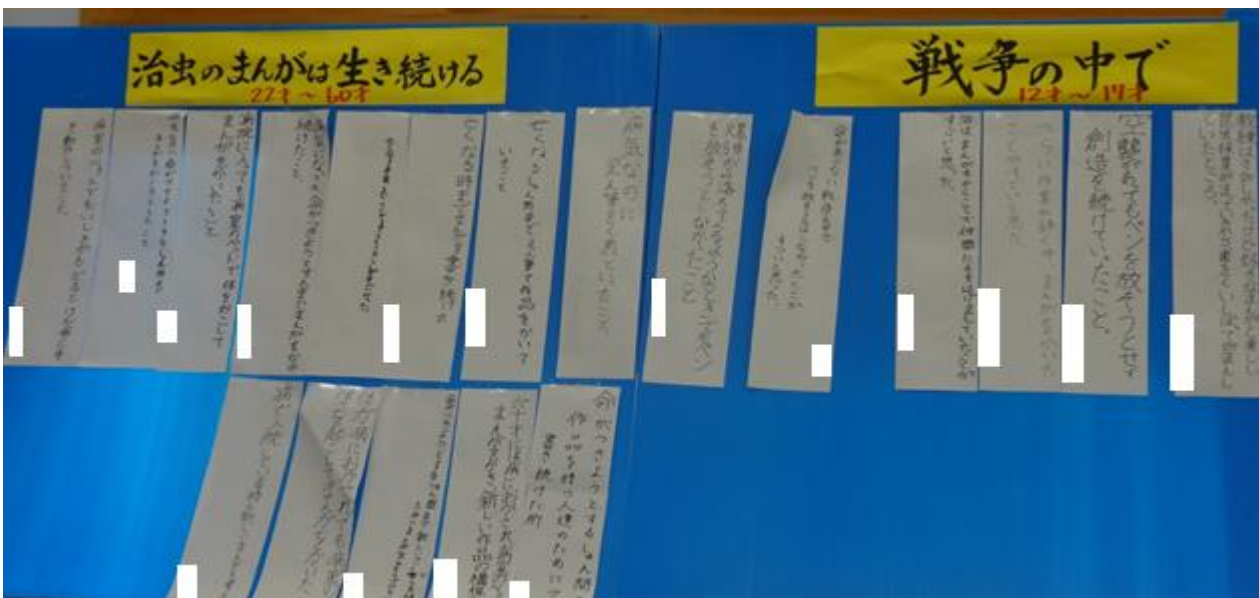
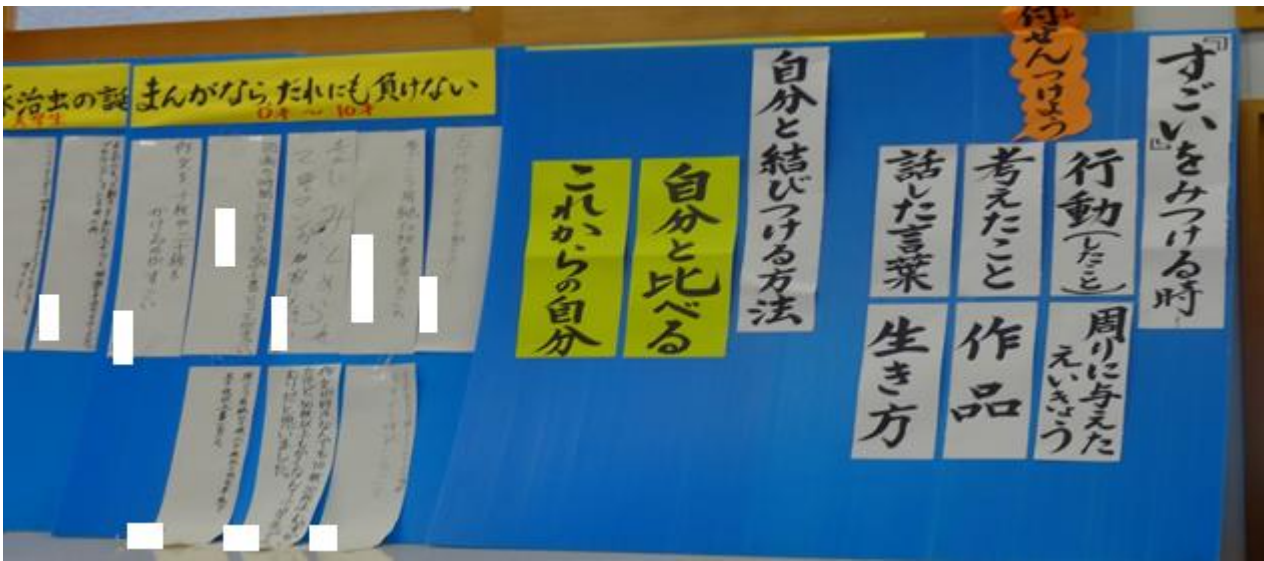
評価規準	「手塚治虫」の人生を読み、『すごい』と思う事実描写を見付けている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	本文の内容を正確に読み取り、『すごい』と思える事実描写を的確に選んでワークシートに明記している。	『すごい』と思える事実描写を選び、ワークシートに明記している。	・付箋を付けていない児童への手立て →事実描写の例をいくつか挙げ、選択させる。
評価の方法	ワークシート・振り返り・行動観察		

3 本時の評価

評価規準	『すごい』と思う事実描写と自分を結び付けている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	自分と結び付ける「書き技」を理解し、自力で付箋に自分と結び付けたコメントを書いている。	モデル感想文の中の「書き技」を模倣しながら、自力で付箋に自分と結び付けたコメントを書いている。	『すごい』と思った事実描写に対して、「書き技」を1つずつ紹介しながら、コメントが書けそうなものを探させる。
評価の方法	ワークシート・振り返り・行動観察		

4 掲示物

児童が見付けた『すごい』を手塚治虫の年代別に分けて、教室に掲示した。



第5学年 実践事例（5時目）

1 本時の目標

モデル感想文を参考にしながら、教材文「手塚治虫」のここが『すごい』と思う行動や生き方と自分の経験や考えとを比べながら、感想文を書くことができる。【読】

2 本時の展開

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 前時の授業を想起する。	○前時に学習したモデル感想文を参考にしたい「書き技」について振り返らせ、活用への意欲を喚起した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>《モデル感想文を参考にしたい「書き技」》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 原稿用紙1枚程度 ② 常体か敬体かそろえる。 ③ 構成を「始め」「中」「終わり」とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「始め」 ～な人 ・「中」 教材文の事実描写＋自分の考えや思い ・「終わり」 手塚治虫の生き方から学んだこと </div>	
2 本時のめあてを確認する。	○ワークシートから、自分を取り上げている事実とそれに対する自分の考えや思いを確認させた。
<div style="border: 1px solid blue; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>《本時のめあて》 手塚治虫の『すごい』と思った事実と自分の考えや思いをつなげ、自分にしか書けないマイ感想文を書こう。</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・モデル感想文を参考にし感想文の構成を知る。 ・「ことばの資料」の使い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を原稿用紙1枚に見立て、「始め・中・終わり」に何を書けばよいのかを視覚的に示した。 ○具体的な例を示し、自分の思いに「ぴったり合う言葉」を見付けるために資料や国語辞典を使うように促した。 ○書き出しに戸惑う児童には、モデル感想文A～Eを真似して書いてもよいことを伝えた。 ○児童の状況を見て、書き進められない児童には個別支援を行った。 ○レディネス調査結果から、自力で感想文が書けないと予測される児童に対しては、自分の思いや考えのところだけでも自力で書けるように穴あきの感想文を用意した。 ○本時に書いた友達の作品(未完成でも可)を電子黒板に提示し、事実描写と自分の思いや考えを結び付けている部分を見付けさせた。【評価】
3 マイ感想文を書く。 ・マイ感想文作成 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ひとり学び</div>	

4 友達の作品を読みながら本時を振り返る。	○次時までマイ感想文を仕上げ、友達の作品の良いところを見付け合う活動をする事を伝えた。
-----------------------	---

3 本時の評価

評価規準	手塚治虫が取った行動や言った言葉を取り上げて、自分の考えを明確にもっている。 【読】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	手塚治虫の『すごい』と思った事実と自分の考えや思いをつなげて、「書き技」を効果的に使い自分にしかかけないマイ感想文を書いている。	手塚治虫の『すごい』と思った事実と自分の考えや思いをつなげて、マイ感想文を書いている。	→児童のワークシートを使って、マイ感想文の書き方を確認する。 →書けないと予想される児童には穴あきの原稿用紙を用意しておく。 →作業が滞っている部分の書き出しを例示し、続きを考えるように声を掛ける。
評価の方法	感想文		

第5学年 実践事例（6時目）

1 本時の目標

友達の「手塚治虫」の感想文の「書き技」を見付けることができる。【読】

2 本時の展開（全8時間 本時6／8）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 前時に書いた「手塚治虫」の感想文をどのようなところに気を付けて書いたかを確認する。	○どのような点に気を付けて書いたかを再確認させた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙1枚程度 ・常体か敬体かどちらかをそろえる。 ・「始め」・・・ ～な人 ・「中」・・・ 自分と結び付ける ・「終わり」・・・ 自分が今後どうしていくか など </div>
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 《本時のめあて》 友達の感想文を読み、「書き技」を見付け、よさを伝え合おう。 </div>	
2 本時のめあてを知る。	
3 友達の「書き技」を見付ける。 グループ学び	○グループで、互いの感想文を読ませた。 モデル感想文の「書き技」見付けの活動を想起させ、友達の感想文の「書き技」を見付けさせた。 ○見付けた「書き技」のよさを付箋に書き、グループで交流させ、互いに認め合わせた。
4 学習を振り返る。	○友達の「書き技」を見付けることができたかを自己評価し、取り入れたいと思った友達の「書き技」を書かせた。【評価】
5 次時の学習を知る。	○次時は、自分が選んだ伝記の本でマイ感想文を書くことを伝え、どんな伝記を選んでいるかを確認させた。 ○『すごい』と思った部分に付箋を入れた状態で本を準備しておくことを知らせた。

3 本時の評価



評価規準	友達のマイ感想文を読んで、友達の「書き技」を見付けている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	読んだ友達の感想文にそれぞれ「書き技」を見付け、記入している。	読んだ友達の感想文のうち、1枚でも「書き技」を見付け、記入している。	→「自分」や「私なら」など自分と結び付けるキーワードを教え、「書き技」を見付けやすい助言をする。
評価の方法	感想文・振り返り・行動観察		

第5学年 実践事例（7時目）

1 本時の目標

自分が選んだ伝記で「マイ感想文」を書くことができる。【読】

2 本時の展開(全8時間 本時7/8)

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 本時のめあてを知る。	○選んだ伝記(対象人物)の『すごい』と思う部分を確認させた。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 《本時のめあて》 自分が選んだ伝記で、「マイ感想文」を書こう。 </div>	
2 書く手順を確認する。	○「手塚治虫」の感想文を書いたことを思い出させながら、活動を確認させた。
 『すごい』と思ったところに付箋を入れる児童	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px auto;"> <p>「マイ感想文」を書く手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 『すごい』と思った部分付箋を入れる。 ② その事実描写と自分の考えや思いを結び付ける。 ③ 『すごい』と思った内容から「～な人」の言葉を考える。《資料参照》 ④ 大まかな構成を考えて原稿用紙に書く。 </div>
3 マイ感想文を書く。	○書き方が理解できている児童は、①→④に進んで自力で書かせた。
 「ことばの資料」を活用する児童	○自分の思いや考えに「ぴったり合う言葉」を使えるように資料を活用させた。
4 マイ感想文を推敲する。	○「手塚治虫」の感想文で共通理解している「書き技」を提示し、「マイ感想文」を自力で推敲させたり、友達と読み合って推敲させたりした。【評価】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> ひとり学び・グループ学び </div>	
5 学習を振り返る。	○手順に沿って感想文を書く活動することができたか、自力で「マイ感想文」を書くことができたかを自己評価させた。

3 本時の評価


評価規準	自分が選んだ伝記で「マイ感想文」を書いている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	「書き技」を使って、「マイ感想文」を書いている。	対象人物の生き方に対する自分の考えを明確にもって「マイ感想文」の中に明記している。	→自分と対象人物を結び付けた内容を1つでも入れるように助言する。
評価の方法	感想文・振り返り・行動観察		

第5学年 実践事例（8時目）

1 本時の目標

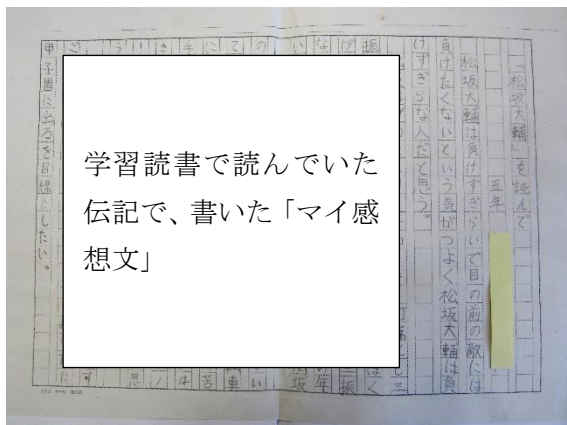
友達の「マイ感想文」を読み、「書き技」を意欲的に見付けることができる。【関・意・態】

2 本時の展開(全8時間 本時8/8)

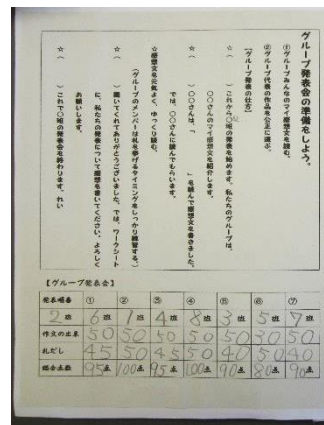
学習活動	教師の働き掛け(○)
1 本時のめあてを知る。	○「マイ感想文」の音読の練習をさせた。
《本時めあて》 グループで「マイ感想文」発表会をし、クラスの感想文集を作ろう。	
 <p style="text-align: center;">発表会の練習をする児童</p>	○「書き技」に着目させ、一般化を図るための手立てとして、聞き手にも、読み手にも「書き技」を書いた札を用意し、「マイ感想文」に「書き技」が使われていたら、札を挙げるようにさせた。
2 3人グループで発表会を行う。	○お互いの声が届くように、三角形に机を寄せて発表会を行った。それぞれの発表が終わったら、「ほめほめカード」を書かせた。
<ul style="list-style-type: none"> ・「マイ感想文」の発表をする。 ・互いに「ほめほめカード」に、表現の良さを称賛する言葉を書き合う。 ・付箋を友達の手紙に貼る。 	○ほめほめカードには、本単元の目標である「人物の生き方に対する自分の考えを明確にもつこと」が達成できているかを評価する内容になるように伝えた。
3 クラスの感想文集を作成する。	○全員分の「マイ感想文」を用意し、感想文集を作成させた。
<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を読む。 	○友達の「書き技」を見付けながら、友達の作品を読む時間を確保した。【評価】
4 学習を振り返り、感想文集の最終ページに、感想を書く。	○「手塚治虫」と自分が選んだ対象人物の「マイ感想文」を書いた単元を振り返って、「できるようになったこと」「学んだこと」を文章で記述させた。

3 本時の評価

評価規準	友達の「マイ感想文」を読み、「書き技」を意欲的に見付けている。【関・意・態】		
判断の規準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	ほめほめカードに友達の「書き技」を表現の良さに着目して書いている。	ほめほめカードに友達の「書き技」を見付けて書くことができている。	→自分の「書き技」と比べて聞かせるようにする。
評価の方法	振り返り(文章)		



6時目 学習読書をしていた伝記で「マイ感想文」を書く



7時目 「マイ感想文」のグループ発表会



8時目 クラスみんなの「マイ感想文」が綴られた「マイ感想文」集